

令和元年 9月

森脇健太 学位論文審査要旨

主査 山崎 章
副主査 萩野 浩
同 永島 英樹

主論文

Association of serum bone- and muscle-derived factors with age, sex, body composition, and physical function in community-dwelling middle-aged and elderly adults: a cross-sectional study

(地域在住の中年および高齢者における血清骨および筋由来因子と年齢、性、体組成および身体機能との関連：横断的研究)

(著者：森脇健太、松本浩実、谷島伸二、谷村千華、尾崎まり、永島英樹、萩野浩)

令和元年 BMC Musculoskeletal Disorders DOI:10.1186/s12891-019-2650-9

参考論文

1. Metal on polyethylene人工股関節全置換術後に偽腫瘍が発生した1例

(著者：森脇健太、上村篤史、榎田信平、岸本勇二、永島英樹)

平成28年 Hip Joint 42巻 593頁～597頁

2. 3次元実体モデルによる術前計画が有用であった大腿骨遠位骨肉腫の1例

(著者：森脇健太、山家健作、永島英樹)

平成29年 整形外科と災害外科 第66巻 882頁～885頁

審査結果の要旨

本研究は、地域在住中高齢者における血清中の骨・筋由来バイオマーカーの性別、年代別の特性、体組成、身体機能との関連性を検討したものである。スクレロスチンは、年齢、SOSとの関連を認めたが、筋量や身体機能との関連は認めなかった。一方で、IGF-1は年齢と共に減少し、SOSとBMIとの関連を認めたことから、筋合成だけでなく骨形成にも関与している可能性があり、筋骨連関の重要な内分泌因子である可能性が示唆された。本論文の内容は、IGF-1など筋骨連関に関わる内分泌因子を調査することで、骨粗鬆症とサルコペニア（加齢性筋肉減少症）との関連性を解明する一助になると考えられ、明らかに学術水準を高めたものと認める。